

# 2015年度 第1四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2015年7月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2015年度第1四半期決算について、  
ご説明させていただきます。

## 2015年度第1四半期 業績 (2015年4月～6月)

(単位:億円)

	2014年度1Q	2015年度1Q	対前年度
売上高	5,584 100.0%	5,909 100.0%	325 +5.8%
営業利益	298 5.3%	362 6.1%	64 +21.3%
税金等調整前 当期純利益	299 5.3%	446 7.5%	147 +49.4%
当社株主帰属 当期純利益	154 2.8%	243 4.1%	89 +58.2%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	31.88円	50.59円	18.71円
為替 :米ドル :ユーロ	102円 140円	121円 134円	19円安 6円高

\*営業利益 増減要因(対前年度) 為替:+19億円、原材料:-5億円

2

2015年度第1四半期は、

フォトイメージング事業、メディカルシステム事業、グラフィックシステム事業、ドキュメント事業などで売上を伸ばし、前年比325億円増の5,909億円となりました。

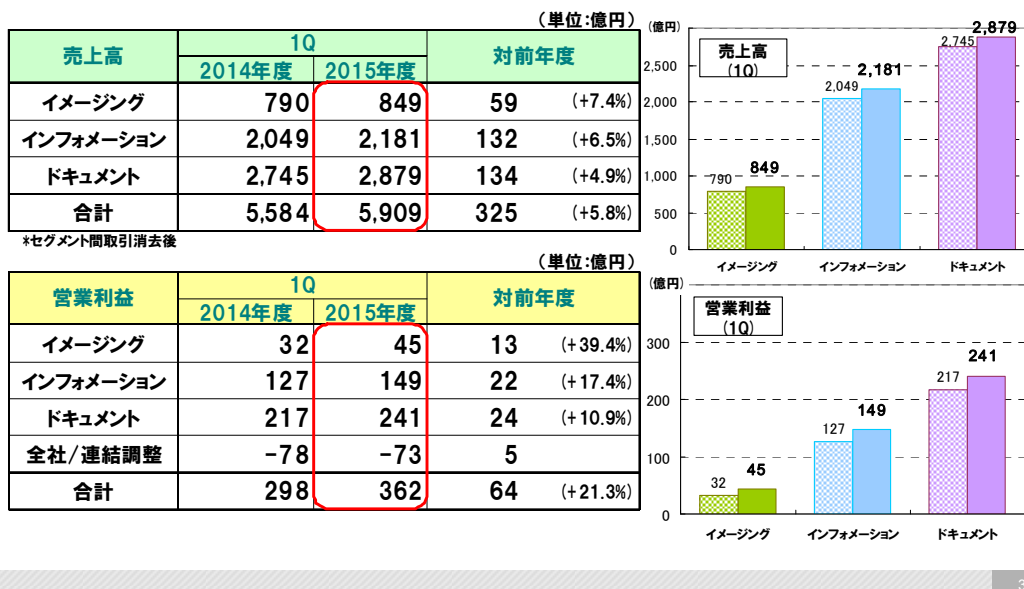
営業利益は、各事業における収益性の改善などにより、前年比21.3%増の362億円と、大幅増益となりました。

これに加えて投資有価証券売却益を営業外収益に計上したことなどにより、

税金等調整前四半期純利益は、前年比49.4%増の446億円、

当社株主帰属四半期純利益は、前年比58.2%増の243億円と大幅増益となりました。

## セグメント別：連結売上高／営業利益



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、  
前年比7.4%増の849億円、  
営業利益は前年比39.4%増の45億円となりました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、  
前年比6.5%増の2,181億円、  
営業利益は前年比17.4%増の149億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、  
前年比4.9%増の2,879億円、  
営業利益は前年比10.9%増の241億円となりました。

## セグメント別 概況

## ■ イメージング ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
849	59 (+7.4%)	45	13 (+39.4%)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が全世界で好調に推移したことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大、プリント機器の設置が進んだことで、売上が大幅に増加。
- ・ 電子映像では、デジタルカメラの高級機へのシフトに伴い売上が減少したものの、プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」の販売は好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が低調に推移し売上減少。

**フォトイメージングにおける大幅な売上増  
などにより増収増益**

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が全世界で好調に推移したことや、「Year Album」や「シャッフルプリント」などの付加価値プリントビジネスの拡大、プリント機器の設置が進んだことにより、売上が大幅に増加しました。

電子映像では、デジタルカメラの高級機へのシフトに伴い売上が減少したものの、プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」の販売は好調に推移しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が低調に推移し、売上が減少しました。今後4Kカメラ対応の放送用ズームレンズの拡販などにより、売上拡大を図ります。

イメージング ソリューション部門は、インスタントフォトシステムなどフォトイメージングにおける大幅な売上増、それに伴う粗利の増加などにより増収増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
2,181	132 (+6.5%)	149	22 (+17.4%)

- ・ メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、超音波診断など成長分野での販売が好調に推移し売上が大幅に増加。  
医薬品は国内の抗菌薬市場が低調だったもののバイオ医薬品受託製造が堅調に推移し、売上が増加。
- ・ フラットパネルディスプレイ材料は、偏光板の在庫調整などの影響を受け売上が減少。  
液晶テレビ向けの拡販、中小型ディスプレイ向けに薄膜品の拡販を推進。
- ・ 産業機材ではエクスクリアなど新規事業の販売が好調に推移したことなどにより売上増加。  
電子材料では先端品のフォトレジストや処理剤などの販売が好調に推移し売上増加。
- ・ 記録メディアは、データストレージ用磁気テープの販売が堅調に推移し売上が増加。
- ・ グラフィックシステムでは、産業用インクジェットヘッドなどの販売が好調で売上増加。

**フラットパネルディスプレイ材料の売上は減少したものの、  
メディカルシステム、グラフィックシステムなどでの売上増、  
収益性改善などにより増収増益**

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、超音波診断など成長分野での販売好調により、売上が大幅に増加しました。医療ITにおいては、診断画像などを効率的に管理するアーカイブシステムを提供する米国のテラメディカ社を5月に買収し、連結子会社化しました。

医薬品は、国内の抗菌薬市場が低調であったものの、バイオ医薬品受託製造が堅調に推移し、売上が増加しました。また、研究開発においては、抗がん剤やアルツハイマー型認知症治療薬などのパイプラインの開発を着実に推進しています。

また、再生医療事業では、iPS細胞の開発・製造のリーディングカンパニーであるCellular Dynamics International社の買収を5月に完了し、連結子会社化しました。再生医療製品開発の加速、事業領域の拡大を進めていきます。

フラットパネルディスプレイ材料は、偏光板の在庫調整などの影響を受け売上が減少しました。今後、需要の回復が見込まれる液晶テレビ向けで拡販を図ると共に、需要が拡大している中小型ディスプレイ向けに薄膜品の拡販を推進していきます。

産業機材では、エクスクリアや太陽電池用バックシートなど新規事業の販売が好調に推移したことなどにより、売上が大幅に増加しました。電子材料では先端品のフォトレジストや処理剤などの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

記録メディアは、データストレージ用磁気テープの販売が堅調に推移し、売上が増加しました。データアーカイブサービスのさらなる展開を進めていきます。

グラフィックシステムでは、産業用インクジェットヘッドなどの販売が好調に推移し、売上が増加しました。デジタルプリンティング機器などの拡販によりさらなる売上拡大を図ります。

インフォメーション ソリューション部門は、在庫調整などの影響によりフラットパネルディスプレイ材料事業の売上は減少したものの、メディカルシステム、グラフィックシステムなどでの売上増、収益性改善などにより、増収増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
2,879	134 (+4.9%)	241	24 (+10.9%)

- ・ 売上は、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上が増加し、全体でも増収となった。
  - オフィスプロダクトは、国内でのカラー複合機及びアジア・オセアニア地域でのモノクロ複合機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加。
  - オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出が好調に推移し、売上が大幅に増加。
  - プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム及びモノクロ・プロダクション・プリンターの販売が好調に推移し、売上が増加。
  - グローバルサービスは、マネージド・プリント・サービスが好調に推移し、国内、アジア・オセアニア地域共に売上が増加。
- ・ 営業利益は、売上増に伴う粗利の増加により増益。

**アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の  
売上増により増収増益**

6

ドキュメント ソリューション部門については、

アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上が増加し、全体でも増収となりました。

オフィスプロダクトは、国内ではカラー複合機が、アジア・オセアニア地域ではモノクロ複合機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加しました。

オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出が好調に推移し、売上が大幅に増加しました。

プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム及びモノクロ・プロダクション・プリンターの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

グローバルサービスは、マネージド・プリント・サービスが好調に推移した国内、アジア・オセアニア地域において売上が増加しました。

営業利益は、継続的な販売価格の下落と米ドル高による原価アップの影響はあったものの、売上増に伴う粗利の増加などにより増益となりました。

## 連結貸借対照表

					(単位:億円)				
	13年度末	14年度末	15年6月末	対14年度末		13年度末	14年度末	15年6月末	対14年度末
現金及び現金同等物	6,046	7,269	7,030	-239	長短社債及び借入金	3,597	3,497	3,588	91
受取債権	6,368	6,810	6,302	-508	支払債務	2,659	2,690	2,569	-121
棚卸資産	3,637	3,725	4,043	318	その他流動固定負債	4,032	4,705	4,694	-11
有価証券 その他流動資産	1,566	1,628	1,678	50	負債計	10,288	10,892	10,851	-41
流動資産計	17,617	19,432	19,053	-379	株主資本計	20,206	22,327	22,550	223
有形固定資産	5,303	5,274	5,289	15	非支配持分	1,776	2,347	2,373	26
営業権	4,231	5,050	5,507	457	純資産計	21,982	24,674	24,923	249
投資有価証券 その他資産	5,119	5,810	5,925	115	負債・純資産合計	32,270	35,566	35,774	208
固定資産計	14,653	16,134	16,721	587					
資産合計	32,270	35,566	35,774	208	(単位:円)				
					期末日為替レート	13年度末	14年度末	15年6月末	対14年度末
					米ドル	103	120	122	2円安
					ユーロ	142	130	137	7円安

次に、バランスシートについてご説明します。

2015年6月末時点の資産合計は、営業権が増加したことなどにより、2015年3月末時点と比べ、208億円増の3兆5,774億円となりました。

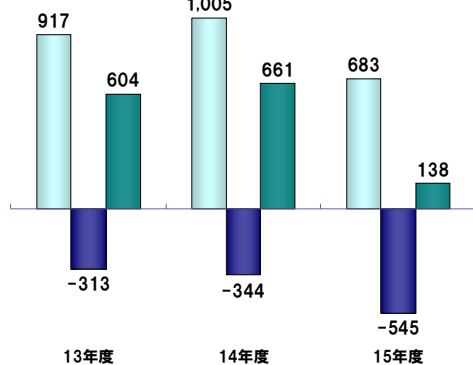
負債は41億円減の1兆851億円、株主資本は、223億円増加し2兆2,550億円となりました。

流動比率は、前期末に比べ3.0ポイント減の309.3%、負債比率は0.7ポイント減の48.1%、株主資本比率は0.2ポイント増の63.0%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

## キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

キャッシュフロー（1Q）



(単位:億円)

	13年度 1Q	14年度 1Q	15年度 1Q
四半期純利益	195	191	283
減価償却費	334	291	286
受取債権の増(-)減(+)	442	744	592
棚卸資産の増(-)減(+)	-113	-166	-255
営業債務の増(+)-減(-)	-36	-134	-141
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	201	190	133
その他	-106	-111	-215
営業活動によるCF	917	1,005	683
設備投資	-196	-160	-138
ソフトウェアの購入	-48	-40	-58
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	9	-90	74
その他	-78	-54	-423
投資活動によるCF	-313	-344	-545
フリー・キャッシュ・フロー	604	661	138
営業活動によるCF+設備投資	721	845	545

8

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、683億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、事業の買収などにより、545億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、138億円のプラスとなりました。

以上で、2015年度第1四半期決算の説明とさせていただきます。



## 2015年度 連結業績予想 (2015年7月30日時点)

	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	(単位:億円) 2016年度目標 (VISION2016)
売上高	24,926 100.0%	25,800 100.0%	874 +3.5%	26,300 100%
営業利益	1,724 6.9%	1,900 7.4%	176 +10.2%	2,200 8.4%
税金等調整前 当期純利益	1,971 7.9%	1,900 7.4%	-71 -3.6%	—
当社株主帰属 当期純利益	1,186 4.8%	1,200 4.7%	14 +1.2%	1,200 4.6%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	245.94円	248.85円	2.91円	—
ROE	5.6%	5%台半ば	—	7.0%
為替 :米ドル	110円	120円	10円安	100円
:ユーロ	139円	130円	9円高	135円
銀価格(/kg)	64,000円	65,000円	+1,000円	76,000円

\*2015年度 営業利益 為替感応度 米ドル:8億円、ユーロ:8億円

続きまして、2015年度の連結業績予想ですが、  
2015年4月30日に発表済みの予想からは変更しておりません。

2015年度第1四半期は、この通期業績予想達成に向け順調なスタートとなりました。  
第2四半期以降も引き続き成長戦略を推進していきます。

## 株主還元

### ■自己株式取得

2015年度中に1,500億円の自己株式取得を実施予定

#### 自己株式取得結果

- ✓ 取得株式数 : 1,091万株
- ✓ 取得価額 : 500億円
- ✓ 取得期間 : 2015年5月18日～2015年7月13日

#### 自己株式取得実施

- ✓ 取得価額(上限) : 1,000億円
- ✓ 取得期間 : 2015年8月3日～2016年3月31日

### ■配当金

2015年度の配当金は、6期連続増配となる対前年5円増配の65円/株を予定

10

最後に、株主還元についてご説明いたします。

1月末に発表しました、取得価額500億円を上限とした自己株式取得については、7月13日をもって終了しました。

さらに本日、取得価額1,000億円を上限に、8月3日から2016年3月31日までの期間で自己株式を取得することを決議いたしました。

これにより、中期経営計画「VISION2016」における1,500億円の自己株式取得については、1年前倒して2015年度中に完了させる予定です。

配当金については、4月末に発表した通り、6期連続増配となる対前年5円増配の1株当たり65円を予定しております。

以上、2015年度第1四半期決算、通期業績予想及び株主還元についてご説明いたしました。  
ご静聴いただき、ありがとうございました。

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社  
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

2015年度第1四半期 決算説明会

**参考資料**

## 1Q 業績

## ■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	1Q		
	2014年度	2015年度	対前年度
フォトイメージング	489	583	94 (+19.3%)
電子映像	175	163	-12 (-6.7%)
光学デバイス	126	103	-23 (-18.9%)
光学・電子映像	301	266	-35 (-11.8%)
合計	790	849	59 (+7.4%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	1Q		
	2014年度	2015年度	対前年度
イメージング	32 [4.0%]	45 [5.2%]	13 (+39.4%)

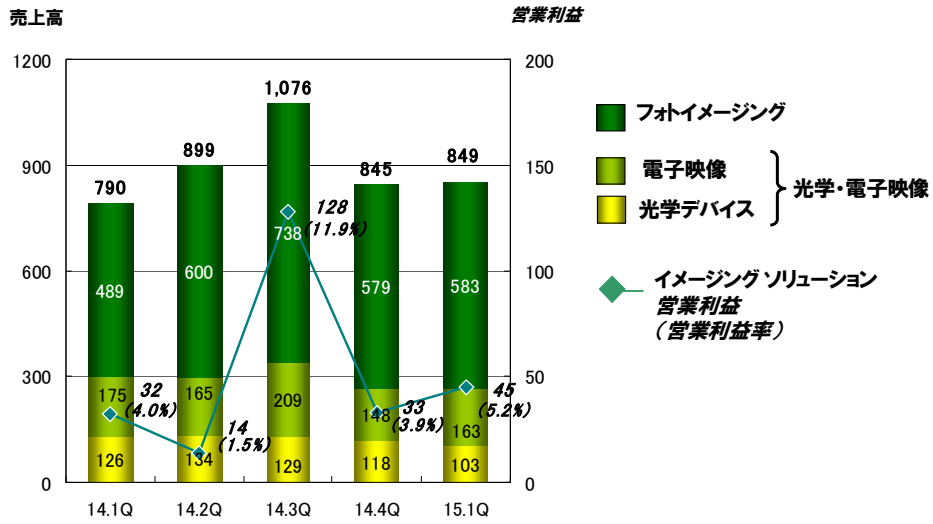
13

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ イメージングソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

## 1Q 業績

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	1Q		
	2014年度	2015年度	対前年度
ヘルスケア	768	880	112 (+14.5%)
フラットパネル ディスプレイ材料	304	209	-95 (-31.2%)
産業機材/電子材料	202	253	51 (+25.6%)
高機能材料	506	462	-44 (-8.6%)
記録メディア	105	108	3 (+3.1%)
グラフィックシステム	652	715	63 (+9.8%)
その他	18	16	-2 (-13.1%)
合計	2,049	2,181	132 (+6.5%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

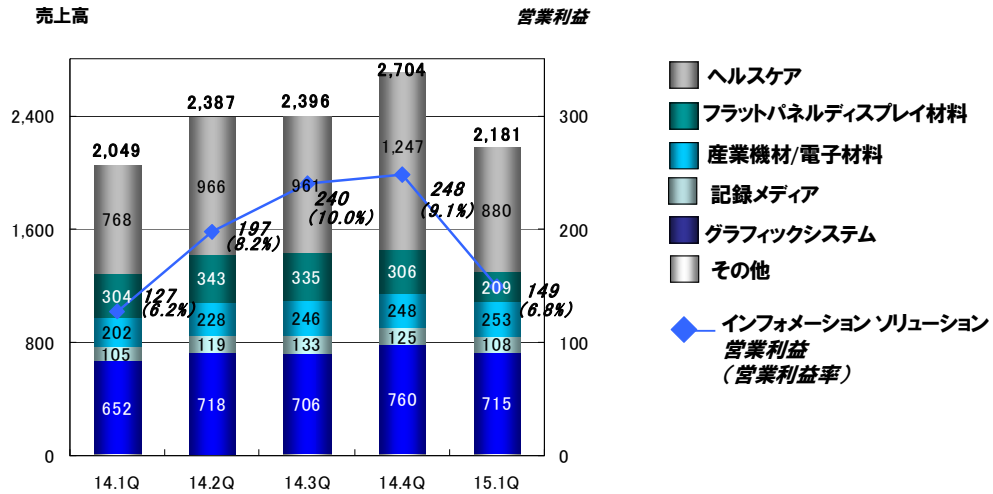
営業利益 [営業利益率]	1Q		
	2014年度	2015年度	対前年度
インフォメーション	127 [6.2%]	149 [6.8%]	22 (+17.4%)

15

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ インフォメーションソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>



## 1Q 業績

## ■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	1Q		
	2014年度	2015年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,266	1,255	-11 (-0.9%)
オフィスプリンター	436	515	79 (+18.0%)
プロダクションサービス	343	380	37 (+10.7%)
グローバルサービス	399	440	41 (+10.3%)
その他	301	289	-12 (-3.9%)
合計	2,745	2,879	134 (+4.9%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	1Q		
	2014年度	2015年度	対前年度
ドキュメント	217 [7.8%]	241 [8.3%]	24 (+10.9%)

17

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

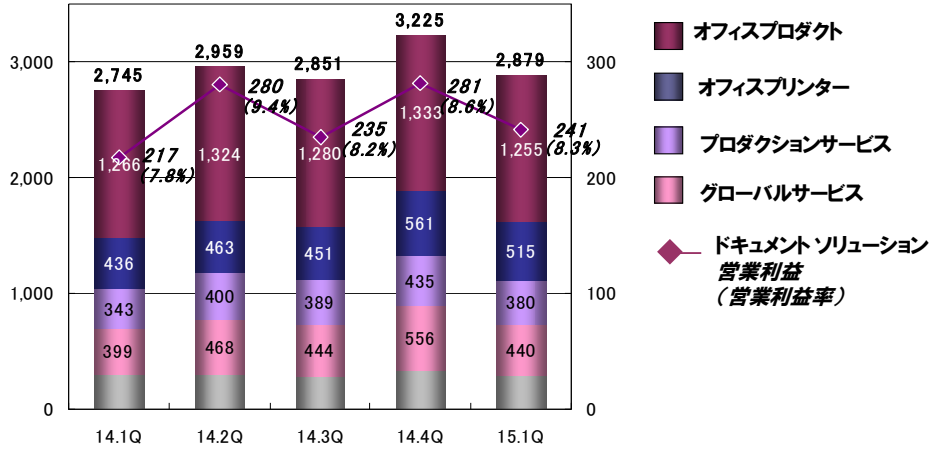
## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ ドキュメントソリューション

(単位: 億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

## 国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2014年度1Q		2015年度1Q		対前年度	
	構成比 (%)		構成比 (%)			
日本	40.3%	2,253	38.4%	2,270	17	(+0.8%)
米州	18.5%	1,035	21.3%	1,261	226	(+21.9%)
欧州	12.9%	720	12.1%	712	-8	(-1.1%)
内、中国	10.7%	592	10.9%	646	54	(+9.0%)
アジア他	28.3%	1,576	28.2%	1,666	90	(+5.7%)
海外	59.7%	3,331	61.6%	3,639	308	(+9.2%)
合計	100.0%	5,584	100.0%	5,909	325	(+5.8%)

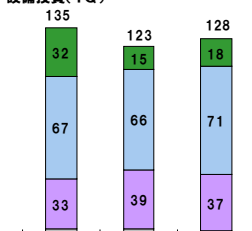
19

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

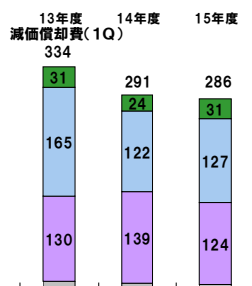
## 設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

設備投資(1Q)



減価償却費(1Q)



(単位: 億円)

年度	1Q			通期		
	2013	2014	2015	2013	2014	2015 (予想)
イメージング	32	15	18	93	79	-
インフォメーション	67	66	71	324	293	-
ドキュメント	33	39	37	239	173	-
コーポレート	3	3	2	14	16	-
<b>設備投資 ※</b>	<b>135</b>	<b>123</b>	<b>128</b>	<b>670</b>	<b>561</b>	<b>800</b>
イメージング	31	24	31	135	111	-
インフォメーション	165	122	127	686	510	-
ドキュメント	130	139	124	561	587	-
コーポレート	8	6	4	32	21	-
<b>減価償却費</b>	<b>334</b>	<b>291</b>	<b>286</b>	<b>1,414</b>	<b>1,229</b>	<b>1,300</b>
<b>有形固定資産の減価償却費 ※</b>	<b>206</b>	<b>157</b>	<b>152</b>	<b>907</b>	<b>651</b>	<b>750</b>

※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

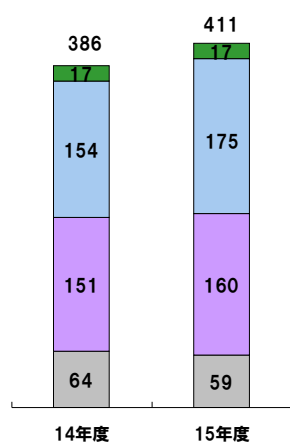
<当スライドは配付資料です>

## 研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(1Q)



年度	1Q		通期	
	2014	2015	2014	2015 (予想)
イメージング	17	17	68	-
インフォメーション	154	175	657	-
ドキュメント	151	160	629	-
コーポレート	64	59	257	-
<b>研究開発費</b>	<b>386</b>	<b>411</b>	<b>1,611</b>	<b>1,650</b>
<売上高比>	6.9%	7.0%	6.5%	6.4%
<b>販売費及び 一般管理費</b>	<b>1,498</b>	<b>1,545</b>	<b>6,280</b>	-
<売上高比>	26.9%	26.1%	25.2%	-

21

<当スライドは配付資料です>

## 為替、原材料価格、人員

### 為替

(単位:円)

	2014年度					2015年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
米ドル	102	104	115	119	110	121	120
ユーロ	140	138	143	134	139	134	130

### 原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2014年度					2015年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
銀	65	67	62	64	64	64	65

### 人員

(単位:人)

	2014.6末	2014.9末	2014.12末	2015.3末	2015.6末
連結	79,192	80,590	80,248	79,235	78,792

<当スライドは配付資料です>

## パイプライン

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み	2014年3月承認(アヒガン錠 <sup>®</sup> )
			米国	Ph III 実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Study (ADCS) と臨床試験実施中
			日本	Ph II 実施中	京都大学iPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	マクロライド系抗菌薬	経口	日本	Ph II 実施中	
ITK-1	<small>バイオ</small> 去勢抵抗性前立腺がん治療薬	注射	日本	Ph III 実施中	
FF-10501	再発・難治性骨髄異形性症候群治療薬	経口	日本	Ph I 実施中	
			米国	Ph I 実施中	
FF-21101	<small>バイオ</small> 進行・再発非小細胞肺がん/膵がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
FF-10502	進行・再発膵がん/卵巣がん治療薬	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
F-1311	前立腺がん診断薬(放射性医薬品)		日本	Ph II 実施中	
-	神経内分泌腫瘍診断薬(放射性医薬品)		日本	承認申請中	一般名:インジウムベンテトレオチド( <sup>111</sup> In)

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、米国、その他でPh III 実施中。FKB238(ヘバシズマブバイオシミラー)は、欧州でPh I 実施中。

23

<当スライドは配付資料です>

## 2015年度 セグメント別業績予想 (2015年7月30日時点)

売上高	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	2016年度目標 (VISION2016)
イメージング	3,610	3,550	-60	3,600
インフォメーション	9,536	10,050	514	10,300
ドキュメント	11,780	12,200	420	12,400
合計	24,926	25,800	874	26,300

(単位:億円)  
\*セグメント間取引消去後

営業利益	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	2016年度目標 (VISION2016)
イメージング	207	230	23	250
インフォメーション	812	950	138	1,050
ドキュメント	1,013	1,050	37	1,250
全社/連結調整	-308	-330	-22	-350
合計	1,724	1,900	176	2,200

(単位:億円)

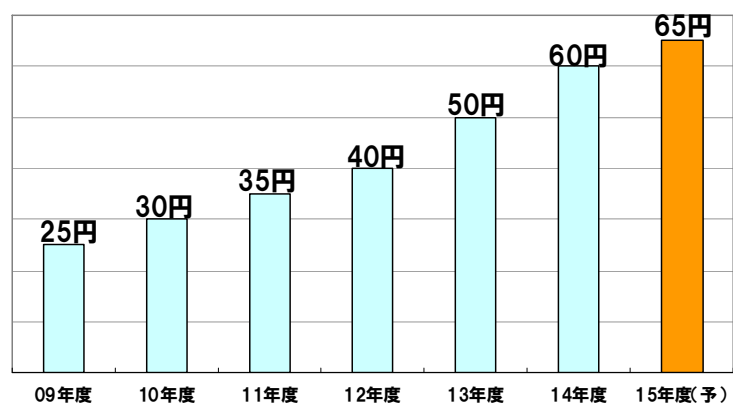
<当スライドは配付資料です>



## 株主還元

### ■配当金

2015年度の配当金は、6期連続増配となる対前年5円増配の65円/株を予定



<当スライドは配付資料です>

## 参考情報

### **富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報**

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

### **富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2015**

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual\\_reports/2015/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2015/index.html)

### **IRイベント資料**

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir\\_events/business\\_presentations/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html)

#### ・事業説明会資料

- 2015年 2月 ドキュメント事業説明会
- 2015年 5月 イメージング事業説明会

#### ・カンファレンス資料

- 2015年 3月 大和インベストメントカンファレンス東京2015

### **富士フィルムってどんな会社？**

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

26

<当スライドは配付資料です>

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社  
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>